

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2172200343		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	グループホーム 天の花		
所在地	岐阜県海津市平田町仏師川461		
自己評価作成日	令和3年10月18日	評価結果市町村受理日	令和4年2月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「天の花」は、医療と介護などの専門職員がお互いに協力し、利用者が安心して楽しく暮らせるよう日々努力しています。カンファレンスも定期的に開催し情報共有に努めています。看護師も常駐し、在宅医療の専門医が往診に来ていただけるため、医療的管理が必要な方も安心してご利用いただけます。看取りに対する考え方やケアと家族様と状態報告なども充実してきました。暮らしなれた場所で最期の時を過ごせるような場所でありたいと願っています。ご家族様も訪問しやすく、遠慮のない関係性を構築したいと常に思っています。家庭的で暖かな雰囲気と笑顔の中で、住み慣れた地域の中で、その人らしい楽しい生活を支援させていただきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=tr:ue&amp;ki_gyosvoQd=2172200343-00&amp;SerViceQd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=tr:ue&amp;ki_gyosvoQd=2172200343-00&amp;SerViceQd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年12月20日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員は、理念の「あなたらしく大切な時間を過ごす」ことを理解し、急な外出やうなぎ、飲酒など利用者の思いや要望を叶えている。モニタリングは、各フロアの職員が話し合いながら行っている。家族の意見や医師の意見、モニタリングの結果から介護計画を作成し全体カンファレンスで職員の意見を聞いて計画を作成している。利用者の能力を活かしチャボの餌作りや洗濯、料理などできることを手伝ってもらえるように働きかけている。施設長は、職員の意見やアイデアを否定せず買い物やレクリエーション、おやつ作りなど意見を反映している。職員同士が相互に尊重し合い、コミュニケーションを取ることで利用者との関係も良くなり、その人らしい生活を支えている事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のフナクリ理念の唱和と一日の出来事の共有しています、また何かしらの変化やアクシデントがあれば早急に報告し合い、引き継ぎを心がけ職員に理念と方向性について再確認している。新人教育時には理念について説明する。	管理者は月2回のグループカンファレンスや毎日のミニカンファレンスで利用者のことを知り、住み慣れた地域でその人らしい生活を支援することを伝えている。職員は、利用者のペースに合わせた支援を心掛けて理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りや清掃活動に積極的に参加していますが、今年は、コロナ感染拡大に伴いお互いに自粛しています。	コロナ禍前は、利用者と一緒に地域の清掃活動や祭りに出掛けていた。管理者は、中学校などで認知症サポーター養成講座を行い、生徒が日曜日に事業所に遊びに来て利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの一環として小学校の児童や地元自治会の方に認知症の気持ちと理解をテーマに…認知症の方への対応や接し方など実施しています。地域ぐるみで認知症の方を支援できるよう今後も貢献していきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では幅広い方のご意見を頂いています。アクシデントレポートや実地指導指摘内容などもオープンに公表しています。また、お亡くなりになった方を偲んで思い出話をしています。ご家族の意見や要望も取り入れるように努めています。	コロナ禍前は、定期的に運営推進会議を開催し、事業所の現状や取り組みを報告し話し合っていた。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、市から連絡があり書面会議を含めて運営推進会議を開催していなかった。	事業所の取り組み内容や現状を知っていただき、メンバーから様々な情報やアイデアを聞くためにも、書面やオンラインなど運営推進会議が開催できるように取り組んで欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告も含め、日常的に交流を持つようにしています。また、市町村の催し物や認知症施策推進委員会にも参加して地域や事業所の実情を伝えています。	法改正や書類作成などわからないことは市の担当者に聞いている。市主催の祭りに施設長が出席して情報を交換している。市の担当者が認定調査や書類を届けに事業所を訪れた時に情報を交換することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、身体拘束廃止委員会を設立して3年目です。4月・7月・10月・12月とカンファレンスを行い「尊厳の保持」は介護保険法の目的に明記されテーマを持って現場の声を聞き入れながら、正しい知識や技術を伝えていきます。	定期的に委員会や勉強会を行い身体拘束について理解できるように取り組んでいる。施設長は申し送り、接し方や話し方など気になることを教えている。職員同士が注意し合いながら利用者のペースを大切に支援を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に観察を行い、普段から皮膚の状態は良く観ています。お風呂時や更衣時にもしっかり観察できていると思います。内出血や皮膚剥離などがあれば速やかに報告できています。日常の介助方法も見直しています。		

グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加し、研修報告としてカンファレンスで共有しています。もっと、色々な職員が参加出来るようになっていきたいと思います。(現在は管理者のみが参加し伝えています)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い同意を得ていましたが、契約などに来られない家族様からの苦情や問い合わせが多いことから顔の見えない家族への対応や説明をしっかりと行う必要があると感じています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のカンファレンスや個人的に話が出来る時間を設け、意見・提案を聞くようにしています。また、各フロアリーダーを通して意見や要望があれば聞くようにしています。話しやすい関係性が大切だと思います。	家族が来訪した時に利用者の状態を伝えて要望や意見を聞いている。家族から、コロナ禍でも面会したいと要望があり窓越しの面会を行っている。介護計画の達成状況や状態を知りたいと要望があり毎月評価表を送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスの他に個人面談を実施しています。運営に関することでの意見を取り入れることは現場の声を聞く。という面でも重要だと思っています。	管理者は、職員の意見を否定しないことを心掛けて柔軟に受け止めている。行事やレクリエーション、おやつ作りなど職員の意見を反映している。急に外出したいと職員から要望があれば許可している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がやりがいを持って楽しく働ける職場作りになるよう研修システムや就業環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に声をかけ不安やストレスはないか？を確認しています。また、表情や最近の勤務態度などの非言語的なようすからもくみ取るようにしています。また、法人内の研修には積極的に参加してもらうよう勤務調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや社会福祉協議会の方と認知症養成講座を通じて交流をしています。また、グループホーム協議会や各連絡会などの研修会に参加し、意見交換の場になっています。		

グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前訪問にご自宅へ行かせてもらってます。その人の生活環境や生活歴などの話をゆっくりと聞き利用者の思いをお聞きしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用に至るまでの家族様等からの問い合わせや相談ごとは、施設長と看護師でもある副施設長で介護・医療を分けて対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、相談内容と要望をお聞きしています。家族様がどのような状況の中で相談しているかを把握してサービスのお話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で、なじみの関係性が出るよう支援しています。いつもと変わらない関わりの中で業務的な関わりをしないよう心がけています。逆に馴れ馴れしすぎる対応も配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に連絡を取り合い、お互いの情報共有をしています。また、家族様側のお話も聞く時間をもち立場や思いを聞き取るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の交友関係を大切に、今までお付き合いのあった友人は積極的に来ていただき、交流が途切れないようにしています。友達交流は盛んです。※現在、コロナ対策を以て対応しています。	利用者の親戚が経営している喫茶店に利用者と一緒に出掛けている。利用者のゲートボール仲間から連絡があり一緒にゲートボールに出掛けている。送られてきた手紙を読んだり返事を代筆している。携帯電話の操作が分からない方には教えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作成することや同じ作業をすることで共通の時間が持てることやリビングで過ごす時間を持って頂くことで憩いの場が提供できています。		

グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様がお亡くなりになることで交流が途絶えることが多いです。これまで築いてきた関係性を大切にしたいと考えております。グリーンケアなど、遺族が集まれる会を作れたら・・・と思っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを把握して、なかなかご本人の希望に沿ったケアは行えていないように思います。その人らしい暮らしの実現をめざしひとりひとりに話しています。	居室で一緒に掃除している時や一人でいる時に声を掛けて思いや意向を聞いている。困難な場合は、入浴や排泄などの様子やしぐさ、表情から思いを把握している。職員同士で話し合い、利用者の思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なじみのものやなじみの関係性はかなり重要だと思っています。施設に入ると社会との交流まで閉ざされる傾向があるため施設事態がオープンであるよう心がけています。アセスメントシートではご本人の暮らしをお聞きするようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の過ごし方を尊重するようにはしていますが、なかなか食事や入浴などはこちらの段取りでお願いすることが多いです。心身状態は常に観察し、必要であれば看護師に報告するなどしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議やご家族様の面会時などに近況報告し話し合いの場を設けるようにしています。また、現状で出来るケアや今後、起こりうるリスクについてもお話するようにしています。	家族の来訪時に利用者の状態を伝えて意見を聞いている。各フロアの職員で話し合いながらモニタリングを行っている。全体のカンファレンスで話し合い医師の意見や職員のアイデアを反映している。状態に変化があれば現状に合った介護計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フローシートにその日の様子を記入しています。一枚をみれば分かるよう工夫しています。また、毎朝、ミニカンファレンスを実施し日々の実践に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに対応できるような工夫をしています。しかし、なかなか柔軟な対応が出来ていないのが現状です。多機能的な関わりが課題です。		

グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や児童や生徒さんとのふれあいを積極的に取り組むことで社会交流が図られています。近隣の図書館・文化祭・お千代保さん・左義長など地域の施設や行事に参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の存在は大きく利用者様の安心に繋がっています。希望された時や必要に応じた医療が受けられるよう配慮しています。	かかりつけ医の受診は家族が同行している。家族に利用者の状態を書面で渡し、受診結果を確認している。家族の都合が悪い時や緊急時は職員が同行し、結果を家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常に利用者様の健康に留意し、いつもと違う、なにか変だ、と言うときはすぐに報告しています。適切な段階で看護介入できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は定期的にお見舞いに行き、病棟看護師や看護師長との連携を図っています。また、看護要約などの情報提供を行い、切れ目のない関わりが出来るよう心がけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の方や看取り体制に入られる方に関しては本人、ご家族と十分な話し合いの場を持ち、お互いが納得、同意できるよう説明しています。ご本人の安楽を優先して考えています。	契約時に事業所の方針を伝えている。状態の変化に伴い早い時期から家族に相談している。看取りになった時には、医師より詳細を説明して家族の意向を確認している。家族の希望があれば宿泊など利用者と一緒に過ごせるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	窒息などの事故や急変が起きた場合には速やかに対応⇒報告が出来るよう心がけています。また、カンファレンスなどで急変時の対応の勉強会を開いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難自主訓練を実施しています。夜間想定も実施しました。緊急避難勧告の改訂も会議の中で周知しています。	夜間想定や洪水を想定した避難訓練を定期的に行っている。地域の代表者をお願いして、緊急時の連絡先として協力が得られている。水、食糧、ランタン、ポリタンクなど備蓄している。	

グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気なくかける言葉のきつさや相手を傷つける言い方には注意していますが、プライバシーを損ねかねない場面も見受けます。みんなで確認し、注意しあえる関係作りも必要だと思っています。	施設長は、一人ひとりを尊重した話し方や接し方が大切であると伝えている。職員は、耳の遠い方に排泄のことを聞く場合は、紙に書いて確認している。居室に日中使用していないポータブルトイレがベッドの横に置かれていた。	職員間で話し合っ、利用者の誇りや羞恥心に配慮した支援を行うことができるように取り組んで欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のニーズを日常生活会話からさりげなく聞き出し、ケアプランに載せて実行できるよう工夫しています。自己決定できる環境作りも大切だと感じています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせたケアを心がけていますが、職員側の都合で支援してしまう時があります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やマニキュアでお洒落を楽しんだり、ヘアースタイルをご自分で決めていただいたりその人らしさを大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなどは、事前にアセスメントし提供していますが、ADLの低下で食事形態を変更しています。厨房での調理のため片付けを手伝っていただいています。	利用者は皮むきや味付け、盛付、下膳など出来ることを手伝っている。利用者の前で天ぷらを揚げたり、一緒にフナ味噌を作ったりしている。うなぎや肉、飲酒など食べたい物を聞いて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療的な管理のもと、食事量・水分量を個別に配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の生活習慣に合わせて、フロア内や居室での口腔ケアの実施はできています。必要に応じて訪問歯科の利用が行えます。		

グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能を評価して、可能な限りトイレでの排泄を促しています。排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。	排泄パターンを把握し職員間で話し合って一人ひとりに合った支援を行うことで布パンツに移行された方がいる。立位の困難な方でもトイレに座り自然に排泄が出来るように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の方法にあった便秘予防に努めています。それでも排便困難時は、看護師と相談し服薬等に対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の生活リズムなどに配慮しバイタルサインの測定値を確認・ヒアリング等による体調確認、意向確認を行い入浴しています。曜日を決めて温泉にも入ってもらい楽しい時間作りに努めています。	湯温や入浴時間など一人ひとりの好みに合わせている。一人でゆっくり浸かりたい方には扉の外から見守っている。嫌がられる方には無理強いせず時間や日にちを変えている。利用者が取ってきた柚子を風呂に浮かべたり、利用者の好みの入浴剤を使ったりして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息、就寝は本人の思いを確認しながら行っています。生活リズムを整える方、起きていると負担のある方に関しては、離床や休息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、看護師にて行っています。服薬に関しては、準備された薬を2名の介護職員が氏名・服用時間を確認し予薬を行っています。薬の影響・副作用など理解が必要のため看護師から説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などを把握して出来ることなどをアセスメントし、行ってもらっています。日常生活の中で出来ないことは、さりげなく職員が行い、不快のないよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により散歩等出来るだけ行うよう支援しています。家族が来所され外食や中央ホールでの団欒での食事など施設をオープンにしてその人の思いに寄り添える支援を、と努めています。	パチンコや回転寿司、図書館など家族にも協力をお願いし出掛けている。ゴルフの好きな利用者と一緒に打ち放しに出掛けている。急に外出を希望される場合でも出来る限り出掛けている。要望があれば告別式に同行したり、自宅に帰宅したりする方もいる。	

グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所にあたり、今までお金を所持していた利用者が突然お金が持てないことは、とても辛いとです。その人に応じて金銭を管理してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて随時対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節感が味わえる物や飾り物そしてアロマオイルで臭覚の刺激。利用者が心地よく暮らしてもらえよう心がけています。	リビングや玄関に利用者が活けた季節の花を飾っている。中庭のチャボをゆっくり眺められるように廊下に椅子を置いている。毎朝、フロアの隅で家族が持参したテキストを見ながらラジオの中国語講座を聞いている方もいる。職員は、室内の温湿度を調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が心地よく過ごしてもらえる環境作りを心がけています。また、気の合った利用者同士で会話ができる場の提供に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族の思いで馴染みのある物を持ってきてもらい落ち着ける空間作りができるよう心がけ工夫している。	ゴルフクラブやダンス、テーブルなど使い慣れた物を持ち込んでいる。家族や親しい人の写真を飾っている。遺影や仏壇を持ち込んで毎日水を供え手を合わせている方や居室でインコを飼って職員と一緒に世話をしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の残存能力をアセスメントして安全・安心に日常生活が送れるよう支援しています。季節感の味わえる花や飾り物や食物も施設周りに植え実を収穫してもらっています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2172200343		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	グループホーム 天の花		
所在地	岐阜県海津市平田町仏師川461		
自己評価作成日	令和3年10月18日	評価結果市町村受理日	令和4年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=tr.ue&amp;ki_gyosyoQd=2172200343-00&amp;SerVi.ceQd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=tr.ue&amp;ki_gyosyoQd=2172200343-00&amp;SerVi.ceQd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年12月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のフナクリ理念の唱和と一日の出来事の共有しています、また何かしらの変化やアクシデントがあれば早急に報告し合い、引き継ぎを心がけ職員に理念と方向性について再確認している。新人教育時には理念について説明する。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りや清掃活動に積極的に参加していますが、今年は、コロナ感染拡大に伴いお互いに自粛しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの一環として小学校の児童や地元自治会の方に認知症の気持ちと理解をテーマに…認知症の方への対応や接し方など実施しています。地域ぐるみで認知症の方を支援できるよう今後も貢献していきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では幅広い方のご意見を頂いています。アクシデントレポートや実地指導指摘内容などもオープンに公表しています。また、お亡くなりになった方を偲んで思い出話をしています。ご家族の意見や要望も取り入れるように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告も含め、日常的に交流を持つようにしています。また、市町村の催し物や認知症施策推進委員会にも参加して地域や事業所の実情を伝えています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、身体拘束廃止委員会を設立して3年目です。4月・7月・10月・12月とカンファレンスを行い「尊厳の保持」は介護保険法の目的に明記されテーマを持って現場の声を聞き入れながら、正しい知識や技術を伝えていきます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に観察を行い、普段から皮膚の状態は良く観ています。お風呂時や更衣時にもしっかり観察できていると思います。内出血や皮膚剥離などがあれば速やかに報告できています。日常の介助方法も見直しています。		

グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加し、研修報告としてカンファレンスで共有しています。もっと、色んな職員が参加出来るようになっていきたいと思っています。(現在は管理者のみが参加し伝えています)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い同意を得ていましたが、契約などに来られない家族様からの苦情や問い合わせが多いことから顔の見えない家族への対応や説明をしっかりと行う必要があると感じています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のカンファレンスや個人的に話が出来る時間を設け、意見・提案を聞くようにしています。また、各フロアリーダーを通して意見や要望があれば聞くようにしています。話しやすい関係性が大切だと思います。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスの他に個人面談を実施しています。運営に関することでの意見を取り入れることは現場の声を聞く。という面でも重要だと思っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がやりがいを持って楽しく働ける職場作りになるよう研修システムや就業環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に声をかけ不安やストレスはないか？を確認しています。また、表情や最近の勤務態度などの非言語的なようすからもくみ取るようにしています。また、法人内の研修には積極的に参加してもらうよう勤務調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや社会福祉協議会の方と認知症養成講座を通じて交流をしています。また、グループホーム協議会や各連絡会などの研修会に参加し、意見交換の場になっています。		

グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前訪問にご自宅へ行かせてもらってます。その人の生活環境や生活歴などの話をゆっくりと聞き利用者の思いをお聞きしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用に至るまでの家族様等からの問い合わせや相談ごとは、施設長と看護師でもある副施設長で介護・医療を分けて対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、相談内容と要望をお聞きしています。家族様がどのような状況の中で相談しているかを把握してサービスの話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で、なじみの関係性が出来るよう支援しています。いつもと変わらない関わりの中で業務的な関わりをしないよう心がけています。逆に馴れ馴れしすぎる対応も配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に連絡を取り合い、お互いの情報共有をしています。また、家族様側のお話も聞く時間を持ち立場や思いを聞き取るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の交友関係を大切に、今までお付き合いのあった友人は積極的に来ていただき、交流が途切れないようにしています。友達交流は盛んです。※現在、コロナ対策をして対応しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作成することや同じ作業をすることで共通の時間が持てることやリビングで過ごす時間を持って頂くことで憩いの場が提供できています。		

グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様がお亡くなりになることで交流が途絶えることが多いです。これまで築いてきた関係性を大切にしたいと考えております。グリーンケアなど、遺族が集まれる会を作れたら・・・と思っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを把握して、なかなかご本人の希望に沿ったケアは行えていないように思います。そのひとらしい暮らしの実現をめざしひとりひとりに話しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なじみのものやなじみの関係性はかなり重要だと思っています。施設に入ると社会との交流まで閉ざされる傾向があるため施設事態がオープンであるよう心がけています。アセスメントシートではご本人の暮らしをお聞きするようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の過ごし方を尊重するようにしていますが、なかなか食事や入浴などはこちらの段取りでお願いすることが多いです。心身状態は常に観察し、必要であれば看護師に報告するなどしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議やご家族様の面会時などに近況報告し話し合いの場を設けるようにしています。また、現状で出来るケアや今後、起こりうるリスクについてもお話するようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フローシートにその日の様子を記入しています。一枚をみれば分かるよう工夫しています。また、毎朝、ミニカンファレンスを実施し日々の実践に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに対応できるような工夫をしています。しかし、なかなか柔軟な対応が出来ていないのが現状です。多機能的な関わりが課題です。		

グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や児童や生徒さんとのふれあいを積極的に取り組むことで社会交流が図られています。近隣の図書館・文化祭・お千代保さん・左義長など地域の施設や行事に参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の存在は大きく利用者様の安心に繋がっています。希望された時や必要に応じた医療が受けられるよう配慮しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常に利用者様の健康に留意し、いつもと違う、なにか変だ、と言うときはすぐに報告しています。適切な段階で看護介入できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は定期的にお見舞いに行き、病棟看護師や看護師長との連携を図っています。また、看護要約などの情報提供を行い、切れ目のない関わりが出来るよう心がけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の方や看取り体制に入られる方に関しては本人、ご家族と十分な話し合いの場を持ち、お互いが納得、同意できるよう説明しています。ご本人の安楽を優先して考えています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	窒息などの事故や急変が起きた場合には速やかに対応⇒報告が出来るよう心がけています。また、カンファレンスなどで急変時の対応の勉強会を開いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難自主訓練を実施しています。夜間想定訓練も実施しています。		

グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気なくかける言葉のきつさや相手を傷つける言い方には注意していますが、プライバシーを損ねかねない場面も見受けます。みんなで確認し、注意しあえる関係作りも必要だと思っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のニーズを日常生活会話からさりげなく聞き出し、ケアプランに載せて実行できるよう工夫しています。自己決定できる環境作りも大切だと感じています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせたケアを心がけていますが、職員側の都合で支援してしまう時があります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧やマニキュアでお洒落を楽しんだり、ヘアスタイルをご自分で決めていただいたりしその人らしさを大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなどは、事前にアセスメントし提供していますが、ADLの低下で食事形態を変更しています。厨房での調理のため片付けを手伝っていただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療的な管理のもと、食事量・水分量を個別に配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の生活習慣に合わせて、フロア内や居室での口腔ケアの実施はできています。必要に応じて訪問歯科の利用が行えます。		

グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能を評価して、可能な限りトイレでの排泄を促しています。排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の方法にあった便秘予防に努めています。それでも排便困難時は、看護師と相談し服薬等に対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の生活リズムなどに配慮しバイタルサインの測定値を確認・ヒアリング等による体調確認、意向確認を行い入浴しています。曜日を決めて温泉にも入ってもらい楽しい時間作りに努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息、就寝は本人の思いを確認しながら行っています。生活リズムを整える方、起きていると負担のある方に関しては、離床や休息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、看護師にて行っています。服薬に関しては、準備された薬を2名の介護職員が氏名・服用時間を確認し予薬を行っています。薬の影響・副作用など理解が必要なため看護師から説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などを把握して出来ることなどをアセスメントし、行ってもらっています。日常生活の中で出来ないことは、さりげなく職員が行い、不快のないよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望により散歩等出来るだけ行うよう支援しています。家族が来所され外食や中央ホールでの団欒での食事など施設をオープンにしてその人の思いに寄り添える支援を、と努めています。		

グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所にあたり、今までお金を所持していた利用者が突然お金が持てないことは、とても辛いことです。その人に応じて金銭を管理してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて随時対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節感が味わえる物や飾り物そしてアロマオイルで臭覚の刺激。利用者が心地よく暮らしてもらえるよう心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が心地よく過ごしてもらえる環境作りを心がけています。また、気の合った利用者同士で会話ができる場の提供に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族の思いで馴染みのある物を持ってきてもらい落ち着ける空間作りができるよう心がけ工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の残存能力をアセスメントして安全・安心に日常生活が送れるよう支援しています。季節感の味わえる花や飾り物や食物も施設周りに植え実を収穫してもらっています。		